

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は長い伝統の中で、働きながら学ぶ生徒への工業の教育を担ってきた。今後とも、これまで培ってきた伝統と教育活動を生かし、工業関係の施設・設備を有効利用できる総合学科として、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を実践することにより、人格の完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として地域社会のリーダーになり得る社会人を育成する。

- (1) 府民の期待に応え、魅力ある定時制高校として、生徒、保護者、地域住民、府民などに広く開かれた教育活動を実践する。
- (2) 定時制高校及び総合学科である本校の特色を生かし、多様な生徒の興味・関心に応じた教育活動を実践する。
- (3) 教師と生徒が信頼関係をもち、ふれ合いを深められる生徒指導に努め、教育活動全体をとおして豊かな国際感覚や人権意識を身につけた人権尊重の教育を推進する。
- (4) 生徒、保護者、府民の信頼に応えるため教職員自ら意識改革をより一層進め、服務についても公明正大を期する。

2 中期的目標

次の取組により、働きながら学ぶ生徒の学力保障と夢の実現を図る。

- (1) キャリア教育の取組をさらに充実させる
 - 全教職員の指導体制を一層強固なものとし、キャリア教育の充実を図る。
 - ・全教科において「キャリア教育の視点」を取り入れた授業を展開する。
 - ・人の話を聞ける態度を養い、自己を表現できる能力を培う。
 - ・3年間を見通した指導計画の更なる改善と指導体制の充実を図る。
 - ・主体的に職業を選択し、就職により自己実現を図る態度を養う。
 - ・学校斡旋による就職希望者の内定率100%の実績を継続する。
 - ・就職してからも伸び続け、安易に離職しない生徒の育成を図る。
 - ・組織的な全員指導体制を継続するため、指導者の人材育成を図る。
 - 進路希望を実現し生徒が「入って良かった」と言える学校にする。
- (2) 基礎学力の定着と向上を図り、卒業・進級率を上げる
 - 生徒の理解度に合わせた習熟度別展開授業を実施し、教材の充実と工夫を図る。
 - 保護者との連携を密にし、出席率の向上を図り卒業・進級率を上げる。
- (3) 自尊感情を向上させる取組を充実させる
 - コミュニケーション能力の向上を図るため、様々な発表機会を積極的に活用する。
(各授業、課題研究発表会、生徒秋季発表大会、大阪府産業教育フェアなど)
 - 生徒会活動・部活動や校内清掃活動を活発化させ、自校を愛する心の育成を図る。
 - HR活動を生徒指導の軸にできるような取組の充実を図る。
- (4) 人材育成を図り、相談体制を充実させる
 - 高校生活支援カードを活用し、教職員のカウンセリングスキルを向上させ、生徒が相談しやすい体制の充実を図る。
 - 教育課題に対する教職員研修の継続実施とOJTによる教職員の育成を図る。
 - 生徒を適切に把握するために実施している教員全身体制による1年生対象の個人面談を継続実施する。
また、この面接によって得られた情報の共有化を進める。
 - 教職員全員による相談体制の維持・向上を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年10月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|--|--|
| <p>【学校生活等】 不登校やひきこもり経験のある生徒や転入学生を多く受け入れている現状から、各個人ごとの家庭環境や配慮事項などを把握するため、合格者の中学校訪問実施・4月当初に全教員による個別面談を実施し、知り得た情報を『高校生活支援カード』へ記載するなど、活用を図った。学校生活への肯定的回答は、「学校に行くのが楽しい」61%、「先生は生徒の意見を聞いてくれる」72%で、前年度より向上した。</p> <p>【学習指導等】 学び直しトレーニング「マナトレ」を4・5月に1学年に実施し、複数人が入り込み、生徒個別の進度に合わせた指導を行い、わかる喜びと授業に臨む学習態度の定着を図った。授業に対する生徒の肯定的な回答は、「自分の意見をまとめたり、発表する機会がある」65%、「授業でわからないことについて先生に質問しやすい」68%、「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」65%であり、前年度よりも向上した。長欠者への対応が課題である。</p> <p>【進路指導等】 キャリア教育推進の校内研修を重ね、全教員による就職指導やアルバイト調査を行い年次進行に沿ったきめ細かい指導を行った。キャリア講演も現時点で2回実施し、進路や職業についての意識向上に努めた。進路指導に関する肯定的回答は「将来の進路や生き方について考える機会がある」68%、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」74%であり、前年度よりも向上した。</p> <p>【生徒指導等】 登校指導として正門に教員が立ち、登校してくる生徒に挨拶をし声掛けを行っている。生徒との会話や表情から健康や感情を汲み取るようにしている。生徒指導に関する肯定的回答は「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」69%、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」60%、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」67%であり、前年度よりも10%以上向上した。</p> | <p>【第1回学校協議会 6月17日(火)】 ○平成25年度の進級・卒業状況について ・進級・卒業率が63.0%と昨年度より2.4ポイント減少している。改善されるよう努力願いたい。 ○就職状況について ・学校斡旋就職希望生徒12名が全員内定したことは喜ばしいことである。今後も、学校全体として取組の継続を継続願いたい。 ○1学年現状報告について ・家庭状況や経済面で支援を要している生徒の力になってやってもらいたい。 ・小中学校で学習の習慣づけができていない生徒への学び直しや、学習面だけでなくあらゆる面で自信をつけさせるような取組を実施願いたい。</p> <p>【第2回学校協議会 11月15日(土)】 ○進路状況について ・学校斡旋就職希望生徒20名の内、10月末時点で内定14名、活動中6名。全員の内定を早期に得られるよう努力を願いたい。 ○学校教育自己診断について ・生徒の評価は概ね肯定的であるが、教員の評価は自らを厳しく評価しすぎている傾向があるのでは。 ・「学校が楽しい・特色がある」という意見が15%上昇しており、「話をよく聞いてくれる」項目は7割以上が高評価している。現在の取組が功を奏しているのではないかと。 ○様々な取組について ・講演会・生活発表大会・マラソン応援等を企画・実施されており、生徒の自己肯定感向上に(+)となっているので、もっと積極的に展開してもらいたい。 ・取組が学外へ知らされていない現状あり。HP等を活用し、積極的にPRすべし。</p> <p>【第3回学校協議会 平成27年2月28日(土)】 ○進路状況について ・学校斡旋就職希望生徒16名の内、16名が内定。進路未定者10名。年度末まで</p> |

には、進路未定者を極力減らす努力を続けたい。

様々な事情や障がいを抱えた生徒の進路確保を得られるよう、引き続き努力を願いたい。

○年度内の取組について

- ・中小企業家同友会とのテーブルミーティングや、トークライブ講演会等様々な新たな取組を実施され、生徒の意欲向上や夢をもって前向きに生きることなどを実践されたと思う。今後も生徒のための取組を心掛けてもらいたい。
- ・定時制合同相談会は、初めての取組で、評価に値する。定時制高校を進路先と考える中学生が、進路決定する時期と重なりベストなタイミングではないか。オール大阪でPRすることで、集客も多かったのではないかと感じた。継続して定時制高校をPRしてもらいたい。

○まとめ

- ・授業以外の取組を実践され、個別に関わろうとする学校組織が、学校の力となり、救われる生徒が多いのではないかと感じた。
- ・進路未決定者の中には、スモールステップでしか成長できない生徒も居る。本校の取組を継続願いたい。
- ・学び直しのきっかけを作ったり、刺激を与えることがつながらなかったのではないかと感じた。
- ・定時制ならではの少人数対応となることで、学校の様々な取組が生徒に与える影響が大きいと感じた。
- ・温かい雰囲気が伝わってきた。就職指導も手厚いので、自信をもって指導願いたい。
- ・コミュニケーション不足の生徒や問題を抱えた生徒と共に、教員が寄り合い指導されていることに感銘を受けた。体験などの取組も取り入れ、実践願いたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|-------------------|--|---|---|---|
| ① □キャリア教育の取組 | キャリア教育を充実させ社会で生きていく力を育成する。 | ア：全教科において「キャリア教育の視点」を取り入れた授業を実施する。 イ：先輩や企業の就職担当者等の講演会を開催し、卒業時の進路未定率を減少させる。 ウ：就職希望者の全員内定をめざす。進路選択力の育成を図り、希望に応じた進路の実現を図る。 エ：あいさつの励行運動を継続する。 | ア：ホームルームと総合的な学習の時間を使った1年次からの体系的なキャリア教育の実施具合。 イ：生徒の就業意識高揚、進路未定で卒業する生徒数。 ウ：学校斡旋就職希望生徒の就職内定率100%継続。 エ：登下校指導、校内巡視、教科指導等での声掛けを積極的におこない、挨拶指導の徹底具合。 | ア：HRや総合的な学習の時間に「職業観」「労働観」を育み、労働三法について理解を深めることができた。(○) イ：キャリア講演会2回実施。社会人としての姿勢や態度を向上させることができた。2月末現在で、進路決定者数38名、進路未定者数10名(△) ウ：学校斡旋就職希望生徒16名が全員内定。(○) エ：登下校指導、校内巡視は年間を通して実施した。教職員の積極的な声掛けや挨拶により、返事を返す生徒も増加した。(○) |
| ② 基礎学力の定着 | 基礎学力(読み・書き・そろばん)の定着を図り、進級・卒業率を前年度比5%向上させる。 | ア：基礎学力の定着と向上を図る(個に応じた指導を徹底する)。特に数学や国語における個別学習を徹底する。 イ：生徒の理解度に合わせた習熟度別展開授業及び教科指導の充実と工夫を継続する。 ウ：保護者との連携を密にし、出席率の向上を図り卒業・進級率を前年度比5パーセント以上向上させる。 | ア・イ：数学・国語の習熟度別展開授業の実施と個別学習教材の作成。 ウ：担任を中心とした教職員の家庭訪問回数。 ウ：進級・卒業率70パーセントの達成。 | ア・イ：1年を通して習熟度別展開授業を実施し、個別学習教材を作成した。(○) ウ：家庭訪問回数……99回(2/10現在)(○) ウ：進級・卒業率……54.6%(△) |
| ③ 自尊感情の向上 | 自分に自信を持ち、他者の立場を理解し互いを認め合う生徒を育成する。 | ア：コミュニケーション能力の向上を図るため、様々な発表機会を積極的に活用する。(各授業、課題研究発表会、生徒秋季発表大会、大阪府産業教育フェアなど) イ：生徒会活動・部活動や校内清掃活動を活発化させ、自校を愛する心の育成を図る。 ウ：HR活動を生徒指導の軸にできるような取組の充実を図る。 | ア：校内課題研究発表会の開催、生徒秋季発表大会、大阪府産業教育フェアへ30名以上参加。 イ：大阪高等学校定時制通信制総合体育大会への出場と成績。 ウ：体育大会・文化祭の成功。 | ア：2月4日(水) 校内課題研究発表大会予定。生徒秋季発表大会に1名、大阪府産業教育フェアに5名×2日、大阪マラソン応援に7名参加(○) イ：3種目に出場し、軟式野球は準優勝(○) ウ：生徒・教員一体となり成功(○) |
| ④ 人材育成と相談体制の充実 | カウンセリングマインドを持った人材を育成する。 | ア：高校生活支援カードを活用し、教職員のカウンセリングスキルを向上させ、生徒が相談しやすい体制の充実を図る。 イ：教育課題に対する教職員研修の継続実施とOJTによる教職員の育成を図る。 ウ：生徒を適切に把握するために実施している教員全員体制による1年生対象の個人面談を継続実施する。また、この面接によって得られた情報の共有化を進める。 | ア：高校生活支援カードの活用具合と生徒支援組織の充実具合。 イ：教職員研修の実施と内容。 ウ：1年生対象の個人面談の実施と情報の共有化具合。 | ア：高校生活支援カードは作成でき、生徒支援委員会も開催しているが具体的対応が未充実。(△) イ：あいりん地区フィールドワーク・府教育センター 妻木靖朗氏の「いじめ講演会」などの人権研修計4回、支援学校首席講演・ハローワーク統括職業指導官講演などの支援教育研修2回実施(○) ウ：合格者出身中学校での情報収集・4月当初の個人面談により高校生活支援カードへの記載完了し、共有化している。(○) |